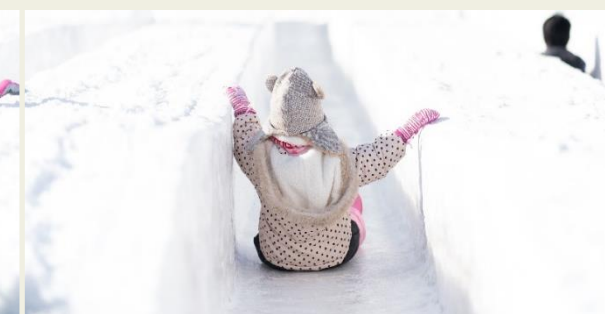




美唄市 観光ビジョン

令和5年度～令和9年度

概要版



第1章 美唄市観光ビジョンの基本的な考え方

観光ビジョン策定の目的

本市では、地域や市民が誇るべき豊かな歴史・文化・自然を生かしながら「観光」を市の新たな成長分野として、平成30年に「美唄市観光ビジョン」(以下「本ビジョン」という。)を策定し、関係機関等と連携しながら、観光PR活動や積極的な情報発信、観光客の受入環境整備などの取組を進めてきました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、インバウンド需要はほぼ消失するとともに、国内の旅行需要も減少するなど、観光関連産業は大きな打撃を受けました。

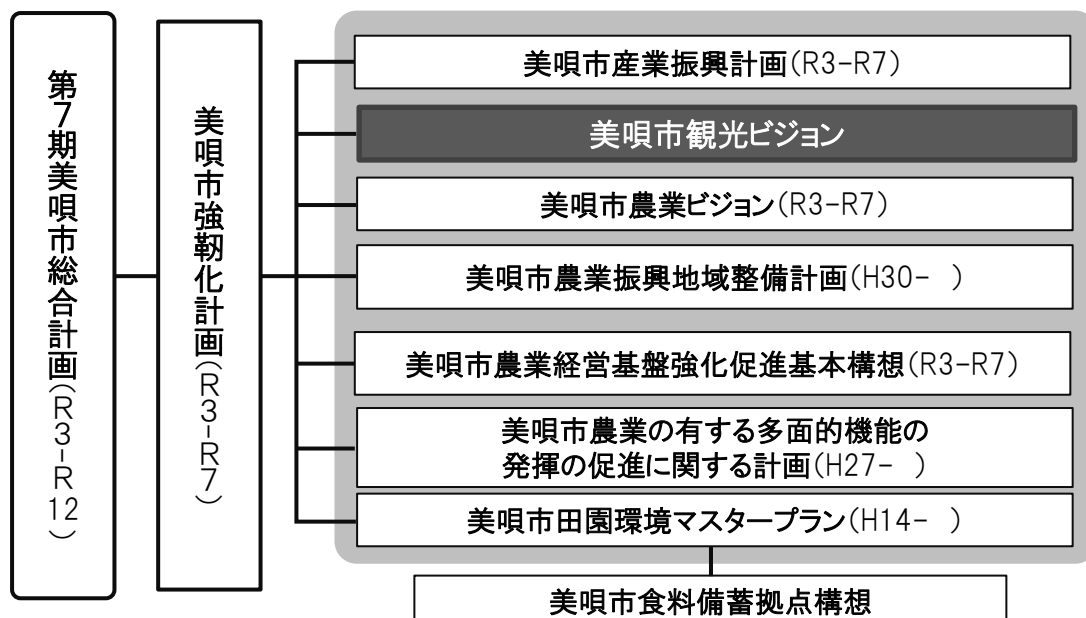
このような背景において、第7期美唄市総合計画に定めるまちづくりの方向性「地域資源を生かした「にぎわい」と「活力」あふれるまちづくり」の中で、国内外からたくさんの人が本市に滞在し、関係人口・交流人口の増加に向けた取組を進めることで、令和7年度に観光入込客数を60万人、宿泊者延べ数を4万人とする目標を設定しました。

この目標の実現に向けて、観光まちづくり推進主体である「一般社団法人ステイびばい」を始め、「美唄観光物産協会等の関係団体」、「市内事業者」と連携を図りながら、本市ならではの「食」、「自然」、「歴史文化」、「芸術」などのすばらしい地域資源を活用し、新たな体験メニューや滞在型観光商品の開発、受入環境の整備を進める必要があることから、これらの施策を推進するに当たり、本市の目指す観光の方向性や実行に向けた方針を明確するため、新たに本ビジョンを策定することとしました。

観光ビジョンの位置付け

本ビジョンは、第7期美唄市総合計画(令和3年度～令和12年度)を上位計画とし、その総合計画に掲げる産業振興政策の取組を具体的に示す個別計画である美唄市産業振興計画(令和3年度～令和7年度)のうち、観光分野に係る個別計画として位置付けるものです。

計画期間は、令和5年度から令和9年度までの5年間で取り組むものとします。



第2章 観光を取り巻く環境の変化

美唄市の観光アトラクション

本市の観光需要を生み出す魅力を指して「観光コンテンツ」という用語が一般的に使われていますが、本ビジョンでは「観光アトラクション」という用語を用いています。

「観光コンテンツ」とは、メディアを通じて提供される観光情報の「中身」を指す言葉であり、観光資源や魅力の源泉という意味ではありません。また、旅行動機を創出するのは「中身」とは限りません。

旅行者の訪問需要は、複数の観光アトラクションへの需要で構成されることが多く、それはヒエラルキーを形成しています。

第1次観光アトラクションは、訪問の根本的な動機を最も形成するもので、本市を訪れる必要性を創出していく観光アトラクションです。よりわかりやすく表現すると「そのためだけに来ても良い」と思わせるアトラクションと読み替えることができます。

第2次観光アトラクションは、訪問の根本的な動機ではなく旅行者が事前に認識しているもので、第1次観光アトラクションの誘因力を補完するものとして、季節を代表するイベント等「せっかくなら行ってみたい」と思わせる観光アトラクションといえます。

第3次観光アトラクションは、訪問するまで認識されていませんが、現地で旅行者が興味を持ったり楽しむことができるアトラクションです。

どれだけ網羅的な政策に取り組んだとしても、重要なのは第1次観光アトラクションと第2次観光アトラクションをいかに創り出せるかに加え、各観光アトラクションの磨き上げによる価値や魅力の向上、更には各観光アトラクションを結ぶ観光ルートの造成を行うことができるかということになります。

本市の観光アトラクションについては、既に誘客の強みとなっている「安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄」、「東明公園」、「宮島沼」、「美唄焼き鳥」、「ピパの湯ゆ〜りん館」を「芸術・デザイン」「自然」「歴史・郷土・文化」に分類し、そのカテゴリごとにそれぞれの観光アトラクションを整理しています。

	芸術・デザイン	自然	歴史・郷土・文化
第1次観光アトラクション 訪問の根本的な動機	安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄	東明公園 宮島沼	美唄焼き鳥 ピパの湯ゆ〜りん館
第2次観光アトラクション 訪問の根本的な動機ではないが、認識されている	café stoven 美唄市体験交流館 HOTEL BIJIKO	我路ファミリー公園キャンプ場 美唄国設スキー場 BIBAI SNOW LAND 美唄市パークゴルフ場 美唄RVパーク	旧桜井家住宅 旧東明駅 空知神社 炭鉱港（日本遺産） 炭鉱メモリアル森林公園 とりめし ひばいさくら(まつり) ひばい歌舞裸まつり ひばい雪んこまつり ピパオイヘルシーロードレース 袋入りやきそば
第3次観光アトラクション 現地で認識され興味を持つ	チョークアート	サイクリングコース 農泊体験 ハスカップ狩り 美唄湿原 美唄ダム 美唄山 ふるさとの見える丘展望台 北海道溜池発祥の地	樺戸道路 くるみもち 屯田騎兵隊火薬庫 日本一の直線道路 沼貝開拓記念碑 美唄市郷土史料館 美唄屯田兵屋 美唄ブラックダイヤモンドズ 三菱美唄記念館 三菱美唄炭鉱歴史坑槽

※この図では、観光アトラクションとして、本市の観光資源の一部を記載しております。

第3章 美唄市の課題整理

美唄市観光の課題

(1) 自治体としての認知度不足

市外・道外在住者にとって「美唄市」という地名の認識はあっても、何を強みにしているのか、どのような観光アトラクションがあるのかなど、自治体としての認知度が高いとは言えない状況にあります。

今後は、本市のイメージを明確化にすることを始め、その認知度を高めるため、本市の特徴を明確にしたコンセプトのもと観光施策を展開するとともに、市外・道外への情報発信の強化を図る必要があります。

また、既に本市を知っている、本市に所縁や思い入れのある方や「ふるさと美唄応援団」に登録している方等が、更なる興味・関心を持つような積極的な情報発信を進めることで、関係人口・交流人口の創出・拡大に努めることが重要です。

(2) 主要ではない観光アトラクションの認知度不足

本市では「食」、「自然」、「歴史文化」、「芸術」など、各カテゴリで主要となる観光アトラクションの認知度は高く、市民や観光客へはその魅力が伝わっていることが調査結果から確認できます。しかし、主要ではない観光アトラクションの認知度が低いことに加え、魅力を感じている観光アトラクションも限られていることを始め、認知度の低い観光アトラクションが多いことから、認知度の高い主要観光アトラクションへの訪問のみで市内での行動が完結してしまうことが多く、市内回遊が進んでいないことで宿泊客へとつながらない課題があります。今後は、認知度や魅力度の低い観光アトラクションの磨き上げや情報発信を行うことで、複数のスポットに立ち寄り、市内回遊につなげながら宿泊客数増を目指す取組が重要となります。

(3) 受入環境整備、市民の意識醸成の不足

市内各地の観光アトラクションへの案内看板が目立たなく、情報不足が見受けられることから、市内移動中に観光アトラクション自体を認識されずにそのまま通り過ぎることや、立ち寄りにくい印象を与えていることがうかがえます。そのため、国内外における観光客全体に対する受入環境の整備を図る必要があります。

また、市民にとっても観光アトラクションの認知度は低いものが多く、市民が友人・知人へ本市のことを勧めたいと思わない人が多い状況にあります。

今後は、子どもからお年寄りまで全ての市民が本市の観光を知り、自身が住むまちに誇りを持てるよう、市民の意識醸成を図るための取組や情報発信を図る必要があります。

(4) 周辺自治体との連携

本市の立地は、札幌市や旭川市などの大きな都市への中継地点であるとともに、多くの道外客がはじめに北海道に降り立つ新千歳空港からも道央自動車道を利用して約70分の距離にある反面、現状は「ついで寄り」や「目的地」としての認識が低く、休憩や滞在していく観光客等が多くはありません。

今後は、他自治体へ訪問ついでに立ち寄りたくなる、滞在したくなるルートづくりを進めるとともに、空知管内の近隣市町と情報共有や情報発信について連携を図り、広域での周遊ルートを造成する必要があります。

第4章 美唄市観光の目指す姿

目標像

訪れたくなる、ずっと居たくなる、住みたくなる、 田園文化創造都市びばい

～豊かな食と自然が実り、歴史文化と芸術に触れることができるまち～

第7期美唄市総合計画の都市像「ともに支え合い 分かち合う 田園文化創造都市 びばい」観光・交流の目指す姿「国内外からたくさんの人が美唄に滞在し、関係人口・交流人口が増えています」を踏まえ、本市が目指すべき目標像を「訪れたくなる、ずっと居たくなる、住みたくなる、田園文化創造都市びばい」として設定します。

本市には、基幹産業である「農業」、そして開拓時からの歴史に裏打ちされた「郷土や文化」、アウトドアやアクティビティができる「自然」、世界的彫刻家である安田侃氏の名を冠した「安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄」等の「芸術」を中心に、多様な資源があります。

これらの資源を生かしながら、本市を訪れる観光客が「訪れたくなる」情報発信を行い、「ずっと居たくなる」ような滞在環境づくりや市民との交流を図り、最終的には「住みたくなる」ための良好な関係づくりを図ることを目指していきます。

【数値目標】

本ビジョンでは、令和3年度を基準として、5年後の目指すべき数値目標を設定し、目標達成に向けた取組を進めます。

	現状値 令和3年度	目標値 令和7年度
観光入込客数	25.2万人 うち宿泊客 1.7万人 うち日帰り客 23.5万人	60.0万人 うち宿泊客 4.8万人 うち日帰り客 55.2万人
宿泊者延べ数	1.7万人	4.8万人
観光消費総額	17.4億円 うち宿泊 3.1億円 うち日帰り 14.3億円	42.5億円 うち宿泊 8.8億円 うち日帰り 33.7億円

※観光消費総額＝観光入込客数×旅行単価（宿泊1人あたり単価：18,272円、日帰り1人あたり単価6,116円）

※旅行単価は令和4年観光消費額調査結果から算出

基本方針

美唄市産業振興計画に掲げる具体的な政策の展開を基本方針とし、美唄市観光の現状・課題に基づき「訪れたくなる、ずっと居たくなる、住みたくなる、田園文化創造都市びばい」を実現するための施策・取組を次のとおり定めます。

基本方針	基本施策	アクションプラン
基本方針1 地域の魅力の磨き上げ	(1)美唄市のイメージの確立	① 美唄市のイメージ形成 ② 特産品の企画・ブランド化等の販売戦略構築
	(2)観光アトラクションの開発	① 観光アトラクションの見直し ② 観光アトラクションを生かした観光商品の開発 ③ 滞在型アウトドアコンテンツの開発
	(3)広域での観光連携の促進	① 広域観光ルートに対応したルート導線強化 ② 空知エリアの美唄発ルートの造成・商品化
基本方針2 受入体制の整備	(1)受入体制の充実	① 外国人観光客誘致のためのコーディネーターの配置強化 ② 観光拠点施設の整備検討 ③ 誘導サインなどの整備
	(2)観光を支える人材の育成・確保	① 観光ホスピタリティの醸成 ② おもてなし外国語、やさしい日本語による語学講座の実施 ③ ガイド・インストラクター等の育成
	(3)推進体制の整備	① 「ステイびばい」との連携 ② 観光客を温かく迎える市民意識の醸成
基本方針3 ターゲットに合わせたプロモーション	(1)多様な情報ツールを用いた情報発信	① 各種広報媒体の充実 ② 観光プロモーションを活用した情報発信
	(2)観光ターゲットの創出・拡大	① 観光マーケティングの実施 ② 国・地域のニーズに応じた誘客の促進 ③ 教育旅行等の受け入れ
	(3)関係人口の創出・拡大	① ふるさと美唄応援団の活用 ② 地域おこし協力隊制度の活用

第5章 アクションプランの展開

基本方針1 地域の魅力の磨き上げ

基本方針1－（１）美唄市のイメージの確立

① 美唄市のイメージ形成

「美唄市といえば〇〇〇」「〇〇〇を見るなら美唄市」といった美唄市のイメージを形成し、関係者間での意識共有を図ります。また、イメージは、本市を印象付ける最も重要な要素の一つとなることから、本市の観光資源等の現状を踏まえ、観光関連団体と十分に議論した上でイメージ形成を行います。

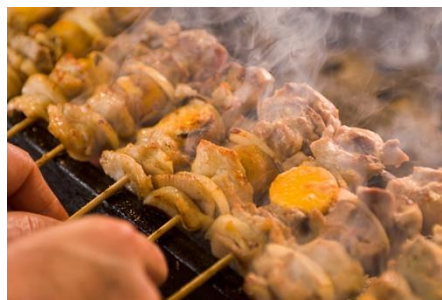
イメージ形成後は、道内外への周知を図り、旅のきっかけや目的につながるイメージを確立するため、旅行商品の造成や観光アトラクションの磨き上げを目指します。

- ◆ 市内観光関連団体との本ビジョンの共有 ◆ 関係者による美唄市のイメージ確立に向けた協議
- ◆ 道内外への美唄市のイメージの周知

② 特産品の企画・ブランド化等の販売戦略構築

特産品のブランド化に向け、新商品の企画、販売方法を検討します。また、「美唄焼き鳥」など地元グルメの販売促進を行います。

- ◆ 新たな特産品開発
- ◆ 首都圏への販路拡大（アンテナショップ等）



基本方針1－（２）観光アトラクションの開発

① 観光アトラクションの見直し

知名度の低い観光アトラクションを、本市を訪れる「目的」となる観光アトラクションへと成長させるため、課題や改善点の見直しを行い、磨き上げを図ります。

- ◆ 観光アトラクションの見直し
- ◆ 観光アトラクションの磨き上げ

② 観光アトラクションを生かした観光商品の開発

「安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄」を代表としたアートツーリズムやスノーアクティビティ等の雪を活用した観光商品、郷土料理、炭鉱等を生かした観光商品を開発し、誘客を図ります。

- ◆ アートツーリズムの開発
- ◆ 雪を活用した観光商品の開発
- ◆ その他地域資源を生かした滞在型観光商品の開発



③ 滞在型アウトドアコンテンツの開発

アウトドアを目的とした誘客を図るため、アウトドア環境の整備を検討します。また、ステイびばいと連携しながら、滞在型アウトドアコンテンツの開発を進めていきます。

- ◆ アウトドア環境整備の推進
- ◆ 滞在型アウトドアコンテンツの開発



基本方針1－（3）広域での観光連携の促進

① 広域観光ルート造成

新千歳空港～札幌～旭川の中継地点としての立地を生かし、動線づくりを強化していきます。

- ◆ 近隣自治体や関係団体との連携強化
- ◆ 美唄 RV パークを活用した広域観光ルートの造成
- ◆ 広域観光ルートの造成

② 空知エリアの美唄発ルートの造成・商品化

空知エリア内の観光コンテンツについて、ステイびばいと連携しながら”美唄発”で楽しめるルートの造成・商品化に取り組みます。

- ◆ ステイびばいと連携した商品開発
- ◆ 近隣自治体との連携強化



基本方針2 受入体制の整備

基本方針2－（1）受入環境の充実

① 外国人観光客誘致のためのコーディネーターの配置

タイ、台湾等の誘客を促進するコーディネーターの配置について、地域おこし協力隊等の活用やステイびばいとの連携により充実を図ります。

- ◆ コーディネーターの育成・配置

② 観光拠点施設の整備検討

道道美唄富良野線の開通に伴い、宿泊施設や新たな観光拠点施設等の整備検討を進めるとともに、市民と観光客の交流促進を図るために観光インフォメーションセンターの機能強化に向けた取組を進めます。

- ◆ 観光拠点施設等の整備検討
- ◆ 観光インフォメーションセンターの充実



③ 誘導サインなどの整備

観光客が市民バス、タクシーなどの2次交通を利用しやすいよう、運行区域などの検討を進め、利便性の高い効率的な運行実施を目指します。

また、初めて訪れる観光客が目的地へとストレスなくアクセスできるよう、各観光アトラクションへの誘導サイン等を設置するとともに、観光アトラクション間での案内の仕組みづくりを行うことで、市内における回遊性向上を目指します。

- ◆ 市内バス路線の運行区域に関する協議・検討
- ◆ 観光アトラクション間での案内の仕組みづくり

- ◆ 誘導サインの整備

基本方針2－（2）観光を支える人材の育成・確保

① 観光ホスピタリティの醸成

市民ガイドの検討、おもてなしマインドの醸成、市民が観光コンテンツを体験する機会の創出、市民の海外経験を奨励する仕組みの検討などを行っていきます。

- ◆ おもてなしに関するセミナー等の開催



② おもてなし外国語、やさしい日本語による語学講座の実施

インバウンド観光の受入環境充実に図るため、ステイびばいと連携し、ニーズ等の調査を行うとともに、市民向けに外国語での簡単なコミュニケーション講座、日本語で気持ちを伝えるマインド講座等を実施し、また、事業者向けに接遇のための語学講座等も実施します。

- ◆ 受入環境充実に伴う調査
- ◆ 事業者向け語学講座等の実施

- ◆ 市民向け語学講座等の実施

③ ガイド・インストラクター等の育成

本市の魅力を伝え、まちの案内を行う観光ガイドの育成や、体験型観光を案内するガイドなど、人材育成に取り組みます。

- ◆ ガイド等養成講座の開催



基本方針2－（3）推進体制の整備

① 「ステイびばい」との連携

観光振興を推進する上で実践的なマネジメント組織となる「ステイびばい」のDMO登録や事業実施に向けた支援を行います。また、「ステイびばい」の自立に向けた協議を進めます。

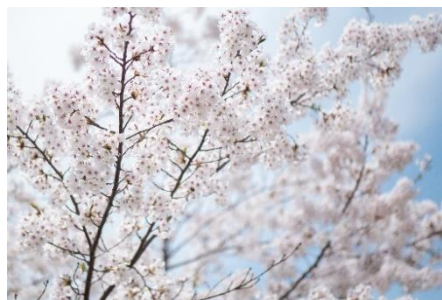
- ◆ 「ステイびばい」が実施する事業に対する支援
- ◆ 「ステイびばい」の自立に向けた協議



② 観光客を温かく迎える市民意識の醸成

市民一人ひとりが観光客を温かく迎えるための市民意識の醸成を図り、将来的な担い手づくりにつなげていきます。

- ◆ 市民向けおもてなしセミナー等の開催
- ◆ ガイド等市民向け講座の開催



基本方針3 ターゲットに合わせたプロモーション

基本方針3 – (1) 多様な情報ツールを用いた情報発信

① 各種広報媒体の充実

美唄観光物産協会やステイびばいと連携した観光ポータルサイトの作成とともに、観光パンフレットやSNSを活用した情報発信など、既存広報媒体の充実を図ります。

- ◆ 観光ポータルサイトの作成
- ◆ 観光パンフレットやSNSを活用した情報発信



② プロモーションを活用した情報発信

地域イベントの開催や道内外の物産展に出展した際に、本市の観光情報のPRを行います。

- ◆ 道内外の物産展への出展

基本方針3 – (2) 観光ターゲットの創出・拡大

① 観光マーケティングの実施

ステイびばいと連携しながら観光客調査や事業者調査等を実施し、観光ニーズや受入実態の把握を行い、結果を生かした観光商品開発を促進していきます。

- ◆ 来訪者満足度調査の実施・調査結果の分析



② 国・地域のニーズに応じた誘客の促進

国際旅行博等へ出展し「アートツーリズム」等に興味を持つマーケットのリサーチ、誘客促進を図ります。

また、台湾、タイ等の注力マーケットについては、現地企業との連携や学生インターンシップの受入促進を図ります。

- ◆ 国際旅行博等への出展
- ◆ 海外現地企業と連携したプロモーションの実施
- ◆ 海外大学生インターンシップ事業の実施

③ 教育旅行等の受け入れ

教育旅行等のための受入環境整備や誘致促進を図ります。

- ◆ 教育旅行等の受入環境の整備

基本方針3－（3）関係人口の創出・拡大

① ふるさと美唄応援団の活用

ふるさと美唄応援団を活用し、本市の観光情報を定期的に発信することで、本市に対する愛着や想いをより一層深め、関係人口の拡大につなげていきます。

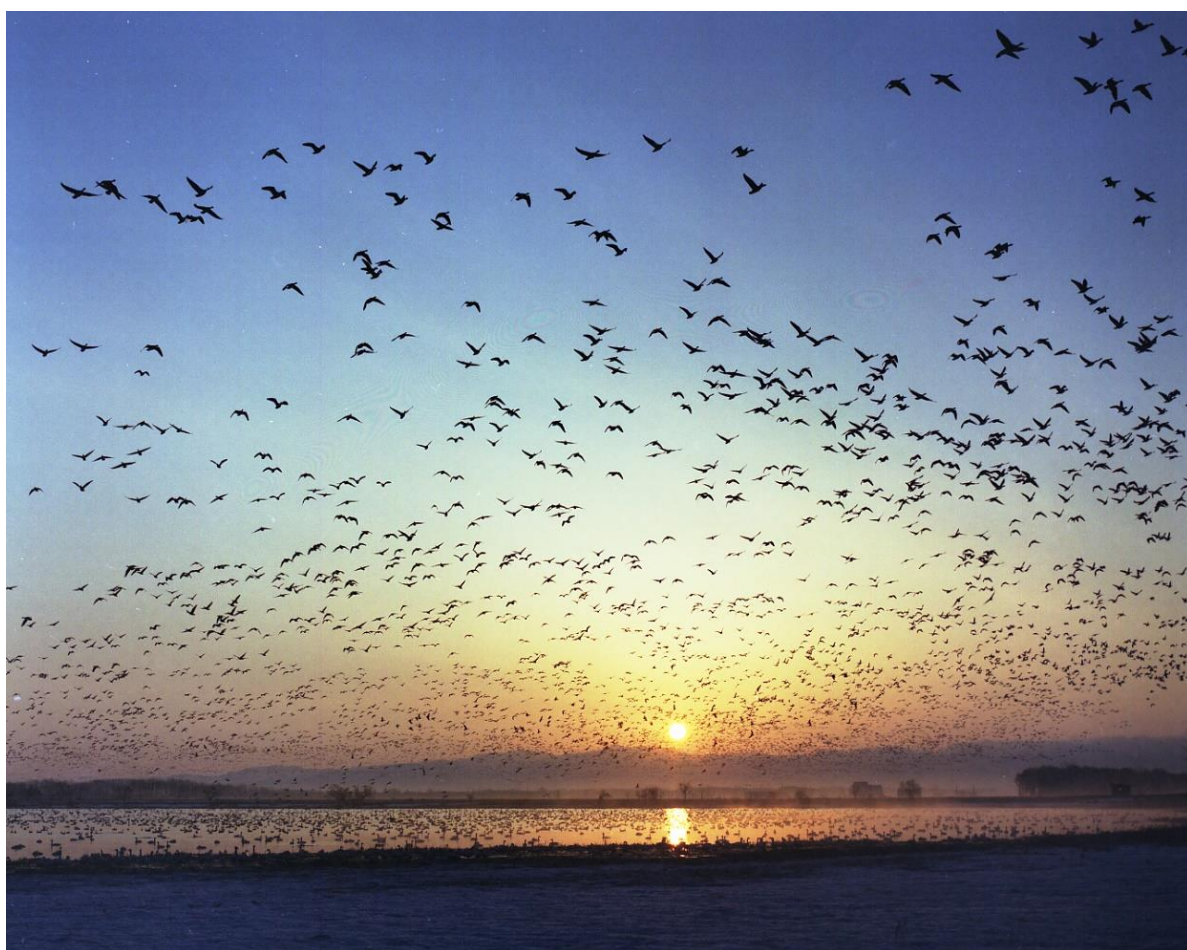
- ◆ 定期的な観光情報発信



② 地域おこし協力隊制度の活用

地域おこし協力隊制度を活用し、アウトドア環境の整備を検討するとともに、本市の魅力ある農産物・特産品等の販路拡大、地域ブランドや特産品の開発・PR、インバウンドを含めた観光客の受入環境整備を図ります。

- ◆ アウトドア環境の整備検討
- ◆ 地域ブランドや特産品の開発・PR
- ◆ 観光客の受入環境整備



第6章 観光ビジョンの推進体制

美唄市の観光振興における役割分担

(1) 市民の役割

観光客を迎える市民自らが地域の自然、歴史、文化への理解を深め、愛着と誇りを持ち、まちの魅力向上に積極的に取り組むことを期待します。このためには、市民一人ひとりが観光事業に大きく関わっていくことが求められます。

(2) 民間の役割

① 観光関連団体の役割

観光関連団体は、情報提供や誘客促進のためのPRを始めとした観光振興事業に積極的に関与できる主体となれるよう組織体制の充実、強化に努めることが重要です。

② 観光関連事業者の役割

観光関連事業者は、観光推進の主体的な役割を担います。

観光事業の推進に当たっては、本市や観光関連団体などと連携し、本市の魅力向上を図るとともに、観光客に対するホスピタリティを育む人材の確保と育成を図ることが重要です。

(3) 美唄市の役割

観光拠点の整備・運営、情報発信、様々な取組の実施に対する支援など、観光全般に取り組みます。

本ビジョンの着実な推進を目的として、民間事業者や各種団体との調整やコーディネート役を果たしていきます。

国、道、空知圏域の市町等と調整を行っていきます。

観光に関する様々なデータの収集に努めていきます。

ビジョンの進捗管理

本ビジョンに示す、目標及び具体的な取組の内容については、第7期美唄市総合計画との整合性・連動を図り、毎年、事業の進捗管理を行うとともに、PLAN（計画策定）→DO（実行）→CHECK（評価・検証）→ACTION（改善・見直し）のPDCAサイクルを実践し、施策を見直していきます。



美唄市観光ビジョン 令和 5 年度～令和 9 年度

令和 5 年 5 月発行

【発行・編集】

美唄市経済部経済観光課

〒072-8660

北海道美唄市西 3 条南 1 丁目 1 番 1 号

電話 0126-63-0112
